

報道関係各位

2025年9月24日

自動運転小型 EV バスを使用した渋谷駅周辺エリアにおける走行試験を実施します

東急バス株式会社

東急バス株式会社(本社:東京都目黒区、取締役社長:古川 卓、以下、「東急バス」)では、9月29日(月)から10月31日(金)までの期間、東京都渋谷区において、東急バスが開発した自動運転小型 EV バスを使用した走行試験(以下、「本実験」)を実施します。

東急バスは、本実験を通じて、自動運転車両を活用した新たな移動サービスの検討を行います。昨今、生活様式の変化や高齢化社会により『移動』のニーズが多様化するなか、地域の生活を支えるために、東急バスは2020年から自動運転技術や遠隔監視の実証実験を実施してきました。本実験はこれまでの取り組みを基に、複雑な走行環境に適応した、円滑な運行を目指します。

使用する車両は、バス事業者として持続可能なサービスを展開するため、東急バスが開発し、運用を可能にした自動運転小型 EV バスです。これまで行ってきた走行試験のノウハウを生かした自動運転機能を備え、本実証実験の走行ルートのように道路状況が常に変化する複雑な走行環境への適応を可能としました。

走行エリアは、鉄道・バス各社が乗り入れる日本屈指の商業地区である渋谷駅(東京都渋谷区)周辺で、渋谷フクラスを起点とし、渋谷駅前交差点(スクランブル交差点)や渋谷区役所、都立代々木公園などを経由し、明治通りや国道246号線を走行するルートとなります。なお、本実験では一般の方は乗車できません。

本実験の詳細については別紙の通りです。



(参考)この資料は本日、国土交通記者会、川崎記者クラブ、横浜市政記者室、横浜経済記者クラブに配布しています。

【報道機関お問い合わせ先】

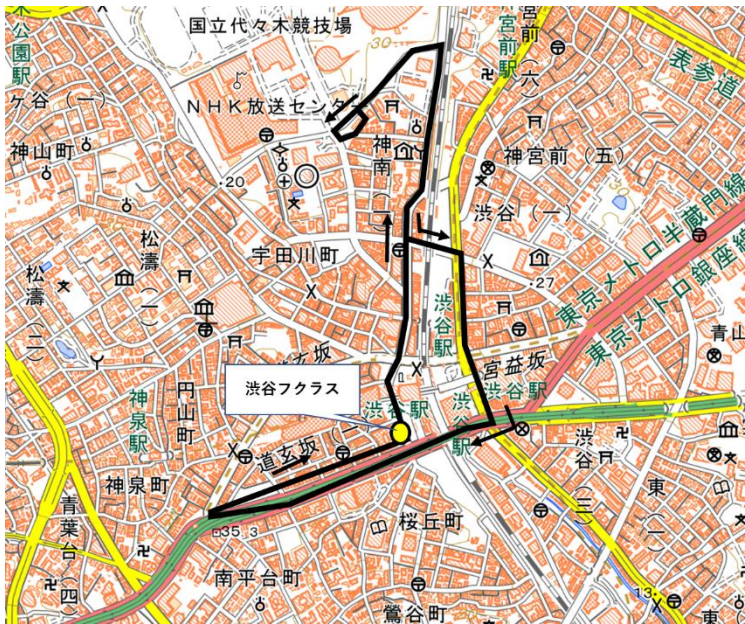
東急バス株式会社 経営統括室 経営企画部(広報担当)

電話 :03-6412-0109 E-mail :somu-g@tokyubus.co.jp

(別紙)

1. 本実験の概要

実施期間	2025年9月29日(月)～10月31日(金)
時間帯	9時～16時
自動運転レベル	レベル2(運転席の係員が常時周囲監視)
車両	市販車をEV改造 (東急テクノシステム株式会社にて実施)
走行ルート	東京都渋谷区内の以下ルート(起点:渋谷フクラス)を走行(約4.1km)、下記走行ルート図を参照 <u>※本実験では一般の方の乗車はできません</u>
遠隔監視	東急バス本社(東京都目黒区)にて実施



▲走行ルート図

2. 本実験の主な検証項目

項目	内容
複雑な走行環境へ適応した自動運転システム	・ 日本屈指の交通量の地域において、複雑な走行環境に対し適切な対応を可能とした自動運転システムの機能を検証
旅客サービス	・ 自動運転バスにおける旅客案内や予約システムなどの検証
遠隔監視	・ 遠隔監視者による旅客案内、運行管理業務の効率化の検証および持続的な監視体制の構築

【参考】

＜東急バス・東急の自動運転に関する取り組み＞

2020年12月、静岡県伊東市の伊豆高原駅付近に複数台の自動運転バスを監視・操縦可能な「遠隔コントロールセンター」を設置し、運行する車両の遠隔監視・操縦技術を検証する実証実験を実施しました。2021年度より、静岡県が実施する自動走行実証事業「しずおか自動運転ShowCASEプロジェクト」を継続して受託、自動運転技術や遠隔コントロールセンターの高度化に加え、案内システムや予約システムの導入など、実用化に向けた取り組みを進めました。

2022年9月と2023年3月には、川崎市麻生区・横浜市青葉区において自動運転バスを遠隔監視により運行管理する実証実験を実施し、多摩田園都市エリアをはじめとした郊外住宅地での自動運転バスを活用した移動サービスの展開に向けて検証を進めました。

2024年5月には、同業他社と会社間の垣根を越え、1人の遠隔監視者が異なるエリアで走行する2社2台の自動運転バスを運行管理する実証実験を行いました。

2025年5月には、東京都世田谷区の間賀駅付近において、市販車を自動運転用にEV化し、自動運転機能を付加した「自動運転小型EVバス」の走行試験を実施しました。自動運転システムの調整・整備を運行事業者にて可能とし、バス事業として持続可能な事業モデルを検証しました。

＜関連リリース＞

・当社開発の自動運転小型EVバスを使用した東京都内のバス路線における走行試験を実施します

<https://www.tokyubus.co.jp/news/70595843ad868745f56c6f915d53ebfba0f032c5.pdf>